

アライグマ情報求む!



平成22年12月12日新居浜市での捕獲個体

アライグマは、ペットが野生化し定着したもので、特定外来生物に指定されており、県内でもすでに四国中央市(H23年)・新居浜市(H22年)・東温市(H21年)で捕獲等生息が確認されています。正式な被害報告は県内では、まだありませんが、香川県等近隣県では生活環境、農林水産業へ大きな被害を与え問題化しており、本県においても、早急な現状把握と、早期の対策が求められています。

特徴



- 眉間に黒い筋、目の周りにマスク模様がある
- **髭は白く**、耳は大きく白い縁取り
- 全体的に白っぽく、特に足は白い部分が多い
- 足跡は**5本の指がはっきり**と分かれている
- 尾は長く(30cm程度)、**リング状の縞模様**
- 神社仏閣等の屋根裏・壁中を寝床に利用することも

アライグマとよく似た野生生物

アライグマ



ハクビシン

アナグマ



タヌキ

写真提供: 千葉県立中央博物館

甘みのある作物を好み、主に収穫期に食害します

対象
農作物

トウモロコシ、スイカ、メロン、モモ、
マクワウリ、ブドウ、イチゴ など

アライグマの食痕



前肢が入るほどの穴をあけ、前肢を器用に使い中身を掻き出すため、このような特徴的な痕跡が認められます。【写真: 香川県提供】

県では、アライグマの情報を集めています。捕獲・目撃・痕跡等の情報がありましたら、御連絡ください。

生物多様性センター TEL 089 - 948 - 9678

(愛媛県立衛生環境研究所内)

ニホンカワウソと思ったら

愛媛県立衛生環境研究所内
生物多様性センターまで

TEL 089 - 948 - 9678



ニホンカワウソの特徴

体は潜水するために細長く、尾は基部が大きく胴との境が不明瞭で太くて長い。頭胴長と尾長の割合は3対2である。短足で四肢に「みずかき」がある。爪は短く耳も極めて小さい。



ニホンカワウソの生態

夜行性的のように見えるが、薄明薄暮に活動して、昼間は真水の流れる場所に「ねぐら」「やすみ場」を作り、そこで休息する。夜間は採餌のため川、沼、海を行動し魚類を捕食する。粗食で小魚(10cm)は丸呑み、中型魚(10cm ~ 20cm)は数cmに噛み切って呑み込むが大きい魚は骨、頭、尾を残し皮、身、臓物を片側から順次食す。川エビは丸呑みし、カニの殻は食さない。糞は「ねぐら」「やすみ場」の近くや岩の上に、砂地では脱糞し砂をかけ次回はその上に重ね、脱糞する。いずれも溜め糞する。行動中の脱糞はサインポストで、川原や海岸の石や岩の上に少量する。糞の未消化の骨、うるこ殻を混入するが餌が不足すると液状糞をする。行動の範囲は広く「ねぐら」「やすみ場」を作りこれを利用して行動する。巣穴はこれとは別で自然の岩穴や木、竹、しだの根の下等を掘って作る。10月~11月に発情し約2ヶ月で1~2頭を出産する。

ニホンカワウソの足跡 (ほぼ実物大)

